

第二言語（外国語）習得の研究

◆キーワード

第二言語習得 学習方略 談話分析

◆産業界の相談に対応できる分野

英語学習方法 英語指導法 小学校英語活動

教育学部英語教育教室 教授

猪井 新一

TEL 029-228-8285

FAX 029-228-8285

e-mail inoi@mx.ibaraki.ac.jp

一言
アピール

第二言語（外国語）習得は社会生活をとても豊かにしてくれます。

研究概要

研究内容は二つに大別できます。一つはやみくもに英語を学習するのではなく、こんなふうに学習したら英語が上達する（あるいは、話せるようになる）といった学習方略(Learning strategies)についての研究です。英語学習において母語である日本語を排除すべきであるとは考えませんが、日本語訳はどうしても限界があり、英語そのものの意味を理解することができません。最近、英語によるコミュニケーションの重要性が力説され、本学での総合英語の授業でもその趣旨に沿った授業が展開されております。だからと言って、英文法はさほど気にしなくてもよいというわけではありません。英文法は極めて重要であり、家に例えれば、基礎部分、そして柱に相当します。それなしでコミュニケーションを図ろうとすると、教養のない片言英語になりいくら学習しても上達しません。英語を使いながら英文法もきちんと習得することが重要です。英文法についても英語それ自体の意味を理解することが重要です。たとえば、前置詞“on”は「表面に接触している」ゆえに「圧力がかかる」ことになります。「～の上に」と和訳しただけでは不十分です。

もう一つの研究分野は談話（ディスコース）分析です。英語を語（句）・文レベルを超えた談話レベルで研究することです。特に、日本語と英語の指示表現の比較を研究しております。日本語では物語の中で人に言及するときには、名前や呼称、あるいは裸名詞（省略あるいはゼロ代名詞）を繰り返し用い、

「彼・彼女」のような代名詞はあまり使用しません。英語では名詞句、代名詞(he/she)が頻繁に使用され、日本語のように同じ名前が繰り返し使用されることはまずありません。このような指示表現の違いを考慮しないと“he”を自動的に「彼」と和訳したり、逆に英文を書く際同一名詞（句）を繰り返すというごちない英文が産出されてしまいます。

平成23年度より全国の小学校の5、6年生で週1時間の英語活動が必修化されました。教員養成学部で英語教育を担当する者として、これに取り組むことが緊急の課題となっております。大きな問題は小学校教員の英語活動研修をどのようにするかということです。これまで英語を教えたことのない小学校教員が、文科省の方針により教科としてではなくとも英語を指導することになります。多くの小学校教員が、自分の英語力も含め授業をどう進めたらよいかについて不安を覚えております。教員免許講習会も含めいろいろな場で、少しでもそのような不安を取り除くことができるように、小学校英語活動の教員研修を支援したいと思っております。

何に
使える？

英語学習方法、英語指導法、小学校英語活動教員研修のようなことに利用できます。